

「子どもたちを第一に考えた学校給食を」の署名に取り組んでいます

昨年8月18日、久喜市は、審議会にも、市議会にも諮らず、独断で理科大跡地に全校分の給食センターを作るとしました。私たち「久喜市の学校給食を考える会」は、子どもたちにとって最良の給食は、自校調理方式だと考えています。多くの市民の皆さんから署名運動に御賛同を得られるよう、課題を整理しました。みなさんでお役立ていただき、署名に協力をお願いします。

あなたの
ギモンに
お答えします

給食Q & A



Q1

なぜ、自校方式が
良いのですか？

A：温かいもの、冷たいものをそのまま適温で提供できます。廊下、教室に匂いがたまたまよいます。調理員や栄養士とのふれあいが密にできます。手作りのメニューが豊富です。また災害時には「食事を提供できる避難所」になります。各校に栄養士の配置ができ、食育を盛んに展開できます。またアレルギー対応がきめ細かに実施できます。

Q2

センター方式だと
どういう問題
がありますか？

A：いったん食中毒が起こると、被害は全学校に及び、リスクが大きい。自校方式よりも食中毒は発生しやすい。また、栄養士の配置は少ないので、子どもとのふれあいや、学校との連携が弱くなります。1万2千食調理なので、冷凍ものが増えたり献立が制限され、手作りはほとんどできません。

Q3

センター方式でも
温かいものを出せると
聞きますが？

A：配送に1時間以上要するので、「食べる2時間前に調理終了」です。保温食缶で「2時間蒸し状態」と「出来立て」は全然違います。献立によっては「食味」をそこないます。やっぱり、「自校方式に優るものはない」ということになります。

Q4

市はどのようにして
センター方式を選ぶ
のですか？

A：市は、「効率性、稼働率」などを理由に上げています。つまり、コスト（費用）を抑える、という財政効率優先の考えです。しかし、食育などをコストで測ることは正しくありません。自校方式にしたときの「手作りの美味しさ」や「ふれあい」などの良さは、数字では表せないからです。

Q5

自校方式にすると給食費は上がるんですか？

A：「上がりません。」
給食を提供するための施設整備費、光熱水費、人件費などは、市の負担です。保護者が負担しているのは、児童生徒が食べる食材料（まかない材料）費分です。その変更はありません。

Q6

もうセンター方式に決まったのではないですか？

A：2017年今年度は、本体の建設と厨房機器の設計委託費が予算化されています。来年度は、建設に必要な予算が組まれる予定です。なので、まだ、見直すことは十分に可能です。

Q7

自校方式を選ぶと建設の費用はどれくらいですか？

A：さいたま市の例では、鉄筋2Fの別棟で調理場を作ったとき1項当たり約3億円となりました。他の例でも、その経費の3分の1は補助で、2分の1は市債（借金）で用意しています。また、既存の校舎内に建設すれば1億円台に収まります。その建設内容は、学校によって異なります。

Q8

全校をどうやって自校方式に変えて行くのですか？

A：当面20校（鷲宮の小中8校と栗橋の中学2校、と久喜の10校）を10年間くらいかけて順次、自校調理に転換します。その後に、菖蒲の7校を転換に向けて検討します。（菖蒲の給食センターは新しいので10年は使えます）こうして、無理がないように計画的に進めることは可能です。

Q9

署名を集めて出すことは、効果があるのですか？

A：大いに効果があります。署名がいっぱい集まるほど、行政も、市議会も無視することはできません。「センター方式は、ちょっと待って！自校方式に転換を」の声を大きく広げましょう。

お知り合いの方などに、署名を拡げていただければと思います お問い合わせは下記まで

久喜市の
学校給食を
考える会

石田利春 090-5808-5265
川辺美信 090-1845-0930
田中 勝 0480-85-2880
平間益美 090-7254-9934

猪股和雄 090-3547-1240
杉野 修 080-5446-5236
船橋延嘉 090-8859-9034
渡辺昌代 0480-21-9058